

対話でつなく ほっこり通信

道徳科 校内研修会

7月4日(月)の3・4・5時間目に道徳科の研修会が行われました。第1学年は「ぼくのふるさと」という教材で「郷土を愛する」ことについて、第2学年は「注文をまちがえる料理店」、第3学年は「しあわせ」という教材で「思いやり・寛容の心」について考えました。教室の後ろで参観される先生が多くいらっしゃったこともあり、普段の授業とは異なる雰囲気の中での授業でしたが、生徒たちは自分なりの考えをもち、意見を伝えることができていました。

「注文をまちがえる料理店」

今回の道徳通信は、第2学年の「注文をまちがえる料理店」の授業を取り上げたいと思います。「注文をまちがえる料理店」は実際に存在します。小国士朗さんの企画で期間限定で開店したもので、認知症の方が働くレストランです。注文をした料理とは別のものが出されることもあります。しかし、そのことを咎めるお客さんはいません。むしろ、間違ったことがコミュニケーションとなり会話が生まれる。そんなレストランです。このことを題材にして、相手を理解し、認め合うために必要なことについて考えました。以下に生徒の意見を載せておきます。

互いに相手のことを認め合うためには、どのようなことが大切でしょうか？

- ・優しく、間違ったことにも怒らないという思いやりがあれば、とても良い雰囲気がつくれると思います。
- ・相手のことや自分のことを知って、お互いの価値観を認め合うこと。
- ・お互いが一人ひとりの個性を理解したり、うそをついたりせず思っていることを言ったりすること。
- ・お互いが相手のことを知ること。
- ・相手と正直な気持ちで話し合うこと。
- ・相手のできるどころ、苦手なところを理解し、二人ともがカバーをしあったり、その人の個性を大切にしたりすれば良いと思います。
- ・相手の立場や気持ちを理解し、思いやりの心をもつこと。
- ・まず、互いを知って、知ったうえで認め合うこと。
- ・互いに考えを理解し、尊重し合うこと。



映像や発問の提示など電子黒板が効果的に使われていました。



マトリクスを用いて、様々な視点から考えました。